

厚労省研究班突発性難聴診断の手引(1973)

I. 主症状

1. 突然の難聴 文字通り即時的難聴または朝、目が覚めて気づくような難聴。
ただし、難聴が発生した時「就寝中」とか「作業中」とか。自分がそのときなにをしていたのかが明言できるもの。
2. 高度な感音難聴
必ずしも高度である必要はないが、実際問題として「高度」でないと突然に難聴になったことに気づかないことが多い。
3. 原因が不明、または不確実、つまり、原因が明確ではない。

II. 副症状

1. 耳鳴り 難聴の発生と前後して耳鳴りを生じることがある。
2. めまい、および吐き気、嘔吐 難聴の発生と前後してめまいや吐き気、嘔吐を伴うことがあるが、めまい発作を繰り返すことはない。

[診断の基準] 確実例 I. 主症状、II. 副症状の全条項をみたすもの。

疑い例 I. 主症状の1.2.の事項をみたすもの

- [参考]
1. Recruitment 現象の有無は一定せず。
 2. 聴力の改善・悪化の繰り返しはない。
 3. 一側性の場合が多いが、両側性に同時に罹患する例もある。
 4. 第VIII脳神経(聴神経)症状以外に顕著な神経症状を伴うことはない。